

令和7年度 学校関係者評価実施用紙（まとめ用）

学校番号	14	学校名	静岡県立浜名特別支援学校	記載者	山本 恭子
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
【笑顔】環境づくり	安全で安心な学校生活	<ul style="list-style-type: none"> 避難生活を見据えた備蓄品の定期的な点検、避難生活想定研修が実施されている。 危機管理マニュアルの見直し 年1回以上 様々な発災時に必要な避難行動を、訓練時に自ら行うことができている。 避難生活に見通しをもてる体験活動を複数組み合わせ実施している。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に点検や訓練など実施しているため、実施率が100%でよい。 地域の福祉避難所となっている。今一度マニュアルの見直しを行うとよい。
		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が校内外で事故やけが、病気から身を守る行動がとれている。 常に事故や危険防止の視点をもって環境を整えている教員 100% 緊急時に自分がとるべき行動を理解している教員 90% 児童生徒が食に関心をもち、マナーを守って食事することができている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 日々の指導が大切である。
		<ul style="list-style-type: none"> 事務部との情報共有により校内で早期に対応する環境整備ができている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 共有の場としてパソコン上の掲示板を活用していることが分かった。
		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が、命の大切さを知り、自分や周囲の人を大切にしている。 人権教育全体計画や道徳教育全体計画に基づいた授業の充実が図れたと答える教員 100% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 机上の学習だけでは難しいので日々の生徒指導の中で指導できるとよい。 人権感覚を高める授業はどんなことをしているのか。人権は個々の意識が大切となる。
	専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ペア同士で互いの授業を見合うことで、主体的に授業づくりに取り組み、授業改善を行うことができた教員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 他（先輩）の授業を見ると自分の気付きが生まれる。指導カードを書くことも大切な研修である。 若手一人で何とかする時代ではなく、チームで取り組むことが大切である。
		<ul style="list-style-type: none"> 外部専門家等による研修を実際の指導場面等に生かすことができた教員 100% 教員育成指標の段階に応じた研修により、専門性を高められたと感じる職員 80% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> よい。

	取組 目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意見
	働きがいのある職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の気軽な会話が、より良い授業づくりや円滑な業務の遂行につながった職員 100% ・業務改善や教員のやりがい向上につながる取り組みを行うことができた。学年、分掌、各 1 ずつ ・常時 19 時、定時退勤日 17 時 30 分施錠と残留希望申し出(上限 1 時間)の徹底がされている。 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で抱え込まないように、雑談相談が大切である。職員室の雰囲気づくりをしたり、すてにある会議に雑談相談タイムを組み込んだりすることもよいではないか。 ・プライベートの悩みも話せる機会になるとよい。
【仲間】活動づくり	仲間との学びの中で、主体性を発揮できる活動づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒個々の自立活動や個別の目標に沿った活動内容と指導・支援が組まれている。 ・個別の指導計画が授業の計画・反省時に活用され、児童生徒の育ちにつながっている。 ・授業づくりの評価に基づき、教科間のつながりや学習の積み上げの視点で、年間指導計画や教育課程の見直しができています。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ研修が効果的であるということなので引き続き取り組めるとよい。学習指導要領の内容を踏まえた取り組みが大切となる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・単元に含まれる各教科の学習内容を具体化し、それを受けて単元目標を設定することができた。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・体験的活動をとおり、児童生徒がワクワク(期待感と意欲)している姿が増えたり、仲間との関係が深まったりしている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を多く取り入れていてよい。 ・浜松駅で校外学習に出掛けていた高等部生徒を見かけた。体験的な学習があつてよい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の内容を意識し、キャリア発達に応じた授業を実践した教員 100% ・本校における 12 年間をつなぐキャリアパスポートが整理され押さえられている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の力を付けるために、試行錯誤していることが分かる。 ・現場実習は、各学年意味合いがある。中学部からどんな仕事があるのか見学できるとよい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末や BYOD 等を活用した、児童生徒が主体的で深い学びにつながる授業を、すべての児童生徒に対し、年 2 回以上実施している。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが使えるものを扱っていくことが大切である。
	豊かな日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ・生活年齢や発達段階に合わせた余暇につながる活動に、児童生徒が興味をもって自ら取り組んでいる。 ・家庭での取り組みへの呼びかけを実施。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的活動から自分の好きを見つけて、余暇活動につながるとよい。

	取組 目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
	を 育 む 活 動 づ く り	<ul style="list-style-type: none"> ・集会やペア学年との活動をとおり、他学部や他学年の児童生徒とあいさつを交わし合うことができるようになっている。 ・体育的行事や学習発表会の中でお互いの活動を知り応援することができている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの活動に意味がある。小中高とつながっている。子供達のことをよく見えている。
【地域】 関係づくり	地 域 と つ な が る 活 動 の 推 進	<ul style="list-style-type: none"> ・学部間の系統性がある環境教育の目標と計画をもとに、学部の実態に合った環境教育が実践されている。 ・地域とつながり、連携した環境学習が展開できている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校外へ視線を向けることはよい。校外では緊張するが、学校に帰ってきて成長を感じることができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流が生まれ、地域資源を活用した学習活動ができている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場に出ているため、大変そうであるが、外部に出て刺激を受けることは大切なことである。
		<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要なケースを正しく把握し、各機関等とつながりながら児童生徒や保護者の願いに寄り添う支援をしている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域へ分かりやすくタイムリーな情報発信ができている。 ・校内作品展や校外作品展、ホームページ上の作品展等を計画的に開催している。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・作業製品の販売などの情報を早めにもらえると自治会の会合で配布できる。 ・この会で話題となったインスタグラムについて取り組んでいてよい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が互いを知り合い、その中で自らを表現できる活動内容になっている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達は様々な違う環境の中で育ってきているため、経験値が違う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼保園や小中高からの依頼に対して必要なサポートをすることができている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能を引き続きお願いしたい。今まで様々なことを子供たちに還元できている。
デジタルプラットフォームの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルプラットフォームの効果的な活用に向けての準備が整っている。 (教務 生徒 進路 体保 特支 学習) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 	